

畜舎増築に隠された戦略



大和町落合松坂にある「(有)根元ファーム」の代表を務める根元^{しんいち}信一さん(50)は、現在畜舎の増築を進めている。畜舎増築の理由を聞くと、そこには時代の変化に対応するための戦略が隠れていた。

(独)家畜改良センターの調査によると、枝肉の平均重量は改良が進み、年々増加している。平成20年度には、去勢牛1頭当たり平均468.4kgだったが、令和元年度は509.6kgとなり、11年の間で41.2kg増加した。

そのため、根元さんは牛同士の衝突事故の防止と一頭当たりの重量を確保することを目的に畜舎増築を決めた。

牛にとって過ごしやすい環境で育てることを心掛けている根元さんは、「日ごろの努力が枝肉に対する評価に結びついた時はうれしい」と語る。

今後の展望を「見た目だけでなく、食べて旨いと感じる枝肉を作ることが目標。インバウンド効果を利用して、海外の方にも日本の牛肉を広めていきたい」と話した。